

# 体力科学投稿規定

改訂：2022（令和4）年9月13日

## I. 投稿資格

本誌への投稿は本学会の会員・非会員を問わない。また、編集委員会が必要と認めた場合、会員・非会員を問わず投稿を依頼することができる。

## II. 掲載採否・順序

原稿の採否は、原則として2名の査読審査により編集委員会にて決定する。査読者からの意見やコメント等は2ヶ月以内に修正した論文を提出する。期限内に提出されなかった論文は不採択とする。掲載は原則として採択順とする。

## III. 原稿の種類

総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）、教育講座、抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）とし、原則として和文のみとする。

- A. オンライン投稿：投稿総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）とする。
- B. 依頼総説、教育講座、地方会抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）は、J-STAGE オンライン投稿審査システムを使用せず、以下のE-mailアドレスへ添付ファイルで投稿する。

hj-tairyoku@turui.co.jp

## IV. 原稿一般規定

ヒトおよび実験動物を対象とした研究の原著、ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）では、当該研究施設等の倫理審査委員会あるいは動物実験委員会等の承認を受けた研究であることを「方法」に明記し、承認番号を記載するものとする。掲載された論文の著作権は日本体力医学会に帰属する。

- A. 使用ソフトウェア：下記の汎用ファイルで作成する。
  - 本文ファイル：Microsoft Office Word
  - 図表ファイル：Microsoft Office Word, Excel, PowerPoint, PDF, JPEG
- B. 用紙設定：和文、英文抄録ともに、用紙設定をA4判とし、上下左右3cmの余白を設け、左側に行番号を入れ、一段組みで10.5ポイント以上の文字でダブルスペースにて入力する。
- C. 用語：日本医学会医学用語管理委員会編「日本医学会用語辞典」英和改訂第3版（2007年出版）、和英（1994年出版）を参照する。
- D. 文体：原稿は、平かな、新かなづかい。当用漢字、外国語、外国固有名詞、化学物質名などは原語、外来語、動植物名などは片かな、数字はアラビア数字を使用する。
- E. 単位及び単位記号：原則として国際単位系（SI）に従うが、当該領域で慣用されているものはこの限りではない。
- F. 図表：説明は英文で適切な題目をつけ、それに続いて図表の内容が理解できる説明を別紙に記載する。
- G. 掲載料及び別刷料：1頁あたり5,000円の掲載料を著者が負担する。（2,400字が刷り上がり1頁に相当する）カラー頁は、1頁あたり20,000円の掲載料を著者が負担する。別刷料は著者負担とする。なお、論文掲載後に正誤表を新たに追加する際、その料金は著者負担とし、1頁につき10,000円の掲載料を負担する。地方会抄録の掲載料は原則無料とする。ただし、地方会大会事務局が認めた非会員の抄録掲載料は、1演題あたり3,000円とする。その他、学会大会および地方会大会で大会事務局が招聘した発表抄録の掲載料は原則無料とする。

H. 校正：編集委員会の決定した期日内で、校正はすべて著者の責任により行う。

I. 投稿についての問い合わせ

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社内 「体力科学」編集事務局宛

〔電話FAX 共通 0235-22-3120〕 E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

V. 投稿規定

A. 原著および総説

1. 論文は独創性に富み、未投稿の研究論文とする。1頁目には、表題、著者名、共著者名、所属機関名、所在地の各（和・英）と、別刷希望部数を明記する。また、責任著者名の右にアスタリスク（\*）を付し、責任著者のE-mailアドレスを記入する。2頁目には英文抄録とkeywords、3頁目以降に緒言、方法、結果、考察、引用文献、図の説明の順に記載する（図表の挿入位置は本文に赤で示す）。表および図は本文原稿とは別に作成する。また、表および図の中の文字および説明は、英語表記とする。
2. 原稿には英文抄録（Abstract：研究目的、方法、結果、結論などを含めて250words以内で記載）およびその和訳文を付ける。またランニングタイトルは、和文で20字以内を明記し、keywords（5語以内）を付ける。KeywordsはMedical Subject Headings（国立医学図書館：最新号）を参考にする。
3. 本文中で引用文献に言及した場合、文章の右肩か著者名の右肩に、末尾の引用文献に照応する番号を付ける。3人以上の共著の場合は“ら”“et al.”を用いる。
  - 例1：長島<sup>1)</sup>によれば……………
  - 例2：手島と角田<sup>2)</sup>によれば……………
  - 例3：馬<sup>3)</sup>によれば……………
4. 文献表の作り方
  - 1) 引用文献の記載順序は本文中の引用順に整理して、本文中の番号と照合する。文献表の著者名は“ら”、“et al.”と省略せず、全著者名を列記する。人名の記載順は姓を先にして名を後にする。本文中に引用されていない文献は、文献表に記載しない。doiの記載を推奨する。
  - 2) 雑誌から直接引用する場合
    - 番号、著者名：論文表題、掲載雑誌、巻：頁（始頁－終頁）、西暦年数の順に記す。
    - 例1：長島未央子：長時間自転車運動が鍛練者の酸化ストレス度及び血中ビタミン濃度に及ぼす影響, 体力科学, 60: 279-286, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.279.
    - 例2：手島貴範, 角田直也：身長相対発育からみた男子サッカー選手の大腿部筋厚発育とボールキック能力の発達, 体力科学, 60: 195-205, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.195.
    - 例3：馬 佳濛, 柴田 愛, 村岡 功：インターネットを利用する中国成人における推奨身体活動充足に関連する社会人口統計学的要因, 体力科学, 60: 185-193, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.185.
  - 3) 単行本から引用する場合
    - 番号、著者または編者名、章名、書名（章名がある場合は書名をイタリック体にする）、版数（括弧に入れる）、編者名（章著者がある場合）、発行所、発行所の所在地、引用頁、西暦年数の順に記す。
    - 例：彼末一之, 中島敏博. 4. 神経機構 I - 温度求心路と体温調節「中枢」-, 脳と体温 - 暑熱・寒冷環境との戦い -, 共立出版, 東京, 72-97, 2000.
  - 4) 訳本から引用する場合
    - 著者名, (訳者名), タイトル, 出版社, 地名, ページ, 出版年の順に記す。
    - 例：アメリカスポーツ医学協会編（日本体力医学会体力科学編集委員会監訳）, 運動処方

の指針-運動負荷試験と運動プログラム-原著第8版, 南江堂, 東京, 57-108, 2011.

5) 欧文の雑誌と単行本から引用する場合

例 1 : Steinberg SF. The molecular basis for distinct  $\beta$ -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111, 1999. doi:10.1161/01.RES.85.11.1101.

例 2 : Bajotto G, Shimomura Y. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247, 2006. doi:10.3177/jnsv.52.233.

例 3 : Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K, Imaizumi K. Effects of the  $\beta_2$ -agonist clenbuterol on  $\beta_1$ - and  $\beta_2$ -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400, 2008. doi:10.1254/jphs.08097FP.

例 4 : Shimomura Y, Murakami T, Nakai N, Nagasaki M. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress Vol.1* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA, 89-116, 2001.

B. ノート, 資料および事例報告 (症例報告を含む)

原著及び総説の投稿規定に準ずる. 但し, ノートおよび事例報告 (症例報告を含む) は原則として刷り上がり 4 頁以内, 図表は 2 点までとする.

C. 依頼総説および教育講座

1. 依頼総説および教育講座は, 体力科学編集委員会の依頼による.

2. 原稿について

1) 依頼原稿は刷り上がり 10 頁以内を原則とする.

2) いずれの原稿も表題, 著者名, 所属などは体力科学投稿規定 V-A に準じて英文名を附す. 教育講座では必ずしも英文抄録を必要としないが, 依頼総説では体力科学投稿規定 V-A に準ずる.

D. 地方会の抄録

原稿は, 一編 900 字以内で表題, 著者名, 所属, 本文を和文で記す.

※提出期限に遅れた場合, 本誌に掲載されない.

E. その他 (Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など)

※Letter to the Editorの項では, 本誌に掲載された原著, 総説, その他の掲載内容についての質問, 疑問, コメント等を編集委員会に寄せ, それに対する回答を執筆者に求め, その内容を掲載する. 質問者も回答者もすべて実名とする.

VI. プレプリント

本誌では, 投稿前または投稿時に著者がプレプリントサーバ (JSTの運営するJxivのみ: <https://jxiv.jst.go.jp/index.php/jxiv>) へ原稿を投稿することを認める. この方針は, 一次研究を記述した原稿の初版にのみ適用される. 査読者のコメントを受けて修正された原稿, 掲載受理 (アクセプト) された原稿および本誌に掲載された原稿は, Jxivに投稿してはならない. Jxivに投稿した原稿を本誌へ投稿する際は, その旨を記載するとともにdoiを明記する必要がある.

また, Jxivに投稿した原稿が本誌に掲載された場合, 著者はプレプリントを更新して本誌に掲載・公開された論文へのリンクを記載する必要がある. なお, Jxivに投稿された原稿の著作権は, 著者が保持するものとする.

なお本誌では, Jxivなどプレプリントサーバに掲載された原稿を引用文献に加えることは原則的に認めない.

## Ⅶ. 倫理・利益相反

- A. 人体ならびにヒト組織を対象とした科学研究を取り扱う論文では、その実験は1964年のヘルシンキ宣言 (<https://www.wma.net/what-we-do/medical-ethics/declaration-of-helsinki/doh-jun1964/>) とその改訂版 (<https://www.wma.net/policies-post/wma-declaration-of-helsinki-ethical-principles-for-medical-research-involving-human-subjects/>)、あるいは国が定めた生命科学・医学系研究などの関連する最新のガイドラインや法令に従って実施されなければならない。また、ヒト遺伝子を取り扱う実験は、日本政府のヒトゲノム・遺伝子解析研究 ([http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito\\_genom.html](http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html)) に従ってなされなければならない。日本体力医学会編集委員会では、所属機関等の研究倫理委員会の審査を受け、承認された研究論文の投稿を受け付ける。当該研究がこれらのガイドラインや法令に従って実施されたことを投稿論文内に明記し、さらに所属機関の倫理委員会が発行した承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。
- B. 実験動物を対象とした研究においては、国が定めた動物実験関連法規・指針を遵守して実施されなければならない。投稿論文内にはその旨を必ず明記し、所属機関の動物実験委員会等が発行した当該動物実験承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。
- C. 総説、原著論文、それに準ずる論文を投稿する際、日本体力医学会における事業遂行に係る利益相反 (COI) に関する指針 ([http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi\\_guideline.htm](http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm)) に基づき、該当する場合には (「自己申告による利益相反申告書」(別紙様式1)) に記入し、併せて編集事務局に提出するものとする。
- また、記載例に倣って、論文末尾にCOIに関して記載するものとする。項目が網羅されていれば簡潔にまとめて記載できるものとする。記載箇所は参考文献の前とする。

### COIに記載を求める事項

- ①当該研究者の所属企業名 (部署名, 職名)
- ②当該企業からの出資 (出資がある場合)
- ③当該研究への関係企業の関与について (研究結果の学会発表や論文発表の決定に関して関係企業が影響力の行使を可能とする契約の有無)
- ④当該研究結果に影響を与えうる企業からの労務提供としての受け入れになっていないか
- ⑤その他、利益相反として申告すべきこと

### 記載例

- ・ A (著者) は Z 社 (企業) の社員 (取締役・顧問) である。
- ・ B の配偶者は Y 社の取締役 (顧問) である。ただし、本研究の結論に Y 社の影響はない。
- ・ C は X 社から研究費を受けた。ただし、本研究の結果解釈や結論に X 社の関与はない。
- ・ D は V 社から講演料を受けた。ただし、本研究の結論に V 社の影響はない。
- ・ E は U 社の特許を有している。ただし、本研究の結果解釈や結論に U 社の関与はない。
- ・ F は T 社から会議参加の費用提供を受けた。ただし、本研究の結果解釈や結論に T 社の関与はない。
- ・ G は S 社から販促資料執筆に対して謝礼を受けた。H は R 社より労務提供を受け入れた。ただし、本研究の結論に S 社および R 社の影響はない。
- ・ I に利益相反はない。
- ・ 共著者全員が利益相反はない。

定められた利益相反状態に該当しない場合は、論文末尾に上記の最後の例、「利益相反自己申告：著者全員が利益相反はない」と記載するものとする。

## Ⅷ. 著者の資格と著者貢献

投稿に際しては、the International Committee of Medical Journal of Editors (ICMJE) の recommendations (<http://www.icmje.org/recommendations/browse/roles-and-responsibilities/defining-the-role-of-authors-and-contributors.html#two>) にしたがって、投稿原稿の研究における全ての著者の貢献（役割）を明確に説明するものとする。ICMJEでは、以下に示す4つの事項すべてを満たす者が著者であるとしており、これらの条件を満たさない研究者は謝辞に記載する。

- 1) 研究の概念化やデザインなど研究計画の立案、得られたデータの分析や解釈に十分な貢献がある。
- 2) 研究の重要な内容に関して、論文原稿の執筆あるいは推敲している。
- 3) 研究論文の発表に関して、最終的な承認を行っている。
- 4) 研究内容の正確性や完全性に関連する質問が適切に調査あるいは解決されることを保証する上で、作業のすべての側面に対して責任を負うことに同意する。

著者の役割は、最終原稿と共に印刷・公表される。したがって、当該研究における貢献を正確に反映する必要がある。

著者の役割の記載例にしたがって、投稿原稿の最後は、著者は著者全員の研究論文に対する貢献について、著者のイニシャルを使って記載するものとする。

### 記載例

- ・著者AA、著者BBと著者CCは、研究デザインとプロトコルを概念化し、研究機関を決定した。著者DDはデータ収集と組み立てを担当した。著者EEはデータの分析と解釈を担当した。草稿は著者AAが担当した。すべての著者は、原稿を批判的にレビューし、修正し、投稿を承認した。
- ・著者AAは、血液疾患および移植に関する患者データの分析ならびにその解釈を担当した。著者BBは、腎臓の組織学的検査を担当し、かつ原稿の執筆に大きな貢献をした。すべての著者は、最終原稿を熟読した上で、投稿を承認した。

附：投稿論文の種類は概ね次の基準によって分類される。

- 1) 原著：独創的研究で新しい事実と価値ある結論を有するもので、体力科学・スポーツ医学の進歩に貢献するものとする。
- 2) ノート：原著より短い、新しい事実や価値ある結論が含まれるものとする。
- 3) 資料：適切な分析法または調査法による有用な結果が含まれ、公表することにより体力科学・スポーツ医学の分野において会員の研究・実践活動に有用な情報を含むものとする。
- 4) 事例報告(症例報告を含む)：運動・スポーツ等による体力医学・スポーツ医学の立場からみた様々な効果または治療・指導効果等の事例報告。

## 論文の分類

### I 生理科学的研究

- I - 1 神経, 感覚
  - I - 1 - a 末梢神経
  - I - 1 - b 中枢神経
  - I - 1 - c 感覚
  - I - 1 - d 運動制御
- I - 2 運動器
  - I - 2 - a 筋生理
  - I - 2 - b 筋生化学
  - I - 2 - c 骨, 関節
- I - 3 呼吸, 循環
  - I - 3 - a 呼吸
  - I - 3 - b 心臓
  - I - 3 - c 末梢循環
- I - 4 血液, 免疫
  - I - 4 - a 血液
  - I - 4 - b 免疫
- I - 5 体液, 内分泌
  - I - 5 - a 体液, 汗, 尿
  - I - 5 - b 内分泌
- I - 6 代謝
  - I - 6 - a エネルギー代謝
  - I - 6 - b 糖代謝
  - I - 6 - c 蛋白代謝
  - I - 6 - d 脂質代謝
- I - 7 栄養, 消化
  - I - 7 - a 栄養
  - I - 7 - b 消化, 吸収
- I - 8 形態, 体構成
- I - 9 加齢, 性差
  - I - 9 - a 発育発達
  - I - 9 - b 老化
  - I - 9 - c 性差
- I - 10 環境
  - I - 10 - a 温湿度
  - I - 10 - b 気圧, 風圧
  - I - 10 - c 低酸素
  - I - 10 - d 高酸素

- I - 11 トレーニング
  - I - 11 - a 呼吸, 循環
  - I - 11 - b 代謝
  - I - 11 - c 筋骨格系他
  - I - 11 - d 体組成
  - I - 11 - e その他
- I - 12 生活, 健康
  - I - 12 - a 休養, 疲労
  - I - 12 - b 健康管理
  - I - 12 - c 疫学
- I - 13 バイオメカニクス
  - I - 13 - a 力学的情報
  - I - 13 - b 動作分析
  - I - 13 - c その他
- I - 14 遺伝子
  - I - 14 - a 遺伝子多型
  - I - 14 - b 遺伝子制御
  - I - 14 - c その他
- I - 15 その他

### II スポーツ医学的研究

- II - 1 スポーツと疾患
  - II - 1 - a 呼吸器疾患
  - II - 1 - b 循環器疾患
  - II - 1 - c 代謝疾患
  - II - 1 - d スポーツ外傷
  - II - 1 - e スポーツ障害
  - II - 1 - f スポーツ歯科
  - II - 1 - g その他の疾患
- II - 2 リハビリテーション, 運動療法
  - II - 2 - a リハビリテーション
  - II - 2 - b 運動療法
- II - 3 薬物, ドーピング
- II - 4 スポーツ心理学
- II - 5 その他